

1. 基本方針について

震災・原発事故から3年が経過しても、職員不足は続き、新たな入居者を迎えることが難しく、震災前から比べると半数となってしまった。

しかし、入居者の今の生活を維持するため、1つには職員の意識を維持継続することが大切であり、「震災」との言葉に捉われず、また、甘えることなく入居者の生活を優先し「安全」で「安心」して過ごせる「生活の場」の環境づくりに努めてきた。もう1つは、日頃より「諦めないケア」の想いを忘れず、多職種間との連携は勿論、必要な時に速やかにケアの見直しを行い、業務を優先しないことに努めてきました。

また、それらに加え、職員の業務継続への負担と不安等の葛藤は並大抵のものではなく、少しでもそれらを解消できるように勉強会や、逆に、限られた人員だからこそできる連携と業務の見直しも行ってきました。

今年の冬の大雪は通勤に大きな支障をきたし、入居者を守るための職員確保ができたかどうか、また、同様に食事提供もできるのかと、震災当時のことが頭を過りました。

然しながら、何時間も掛け通勤した職員、帰らずに何日も泊り込んだ職員、睡眠も取らずに頑張った職員、この職員の使命感と意識の高さに助けられ、入居者は普段通り過ごすことができました。これらは、当ホーム職員の連携と繋がりがより強固なものであると実感でき、誇りに思い自慢できるものです。

① 生活の質をあげる

放射線量の問題や人員不足により、職員の意識が低下しそうなとき、職員間から「これでいいのか」との声も徐々に高まり、業務を見直すことができました。そこには、現状から逃げないとの強い想いもあったからだと思います。

定期的な家会議では、「生活」「食事」「入浴」「排泄」に分けケアの内容を検討してきました。特に各担当となっている職員が中心となり、入居者のため衣服や身の回り用品等をシフト休に買い物を行う等、生活を支えてきました。

また、ご家族との繋がりを考え、面会の回数を少しでも増やせるよう、面会時の雰囲気づくりや入居者の変化を手紙や電話で知らせることで、今年度は全体で702名の面会がありました。震災後から比べると徐々に増えてきており、小さな子供達の面会も見られ、入居者の心を和ませてくれていました。これからもご家族との繋がりを大切にして行きたいと思います。

② 重度化への取り組み

高齢化と共に身体機能の低下、認知症状の重度化が見られてきていますが、日々の生活リハビリを取り入れ、今、行えていることの維持に努めてきました。また、生活にメリハリや楽しみを見出せるよう、レクリエーションの充実に取り組んできました。

昨年までは、手芸やはり絵等の製作等を取り入れましたが、徐々にそれも難しくなっている傾向にあることから、内容も「自立支援」と「スキンシップ」を加えながら関わられるようにしてきました。

一年間のケアを通し、特に「食事介助」「入浴介助」「排泄介助」には、個別ケアが図れるようにしてきました。食事の形態や食事量、時間等、その日の体調に合わせ柔軟な考えで、安全に美味しく食べられるよう、看護職、栄養士、調理職の協力を得て行うことができました。

入浴介助に関しても、定期的な入浴が困難な方に対しては、入浴可能な体調時に入浴をして頂き、それでも入浴できない時には、必ず清拭等で対応してきました。排泄介助に関しては、プライバシーは勿論のこと、皮膚の管理や排便コントロールの管理、消臭対策に取り組んできました。

職員会議については、毎月最終木曜日開催。各家のケアの取り組み状況や家目標を設定、また、1ヶ月間特に取り組んできた内容と成果を発表できることで、職員のケアに対する意識向上に努めてきました。

2. 諸会議・行事等について

① 職員会議

開催月日	議 題 ・ 内 容
H25.5.1	今年度の事業計画（ホーム、厨房、各家）、各家の取り組み状況報告、厨房会議報告
5.30	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会より事業計画（口腔、入浴、排泄、リスクマネジメント）
6.27	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会報告：①リスク委員会（アクシデントの集計・車椅子疑似体験について）、②口腔ケア委員会（食前体操について）、③入浴委員会（入浴の日について）、研修報告「平成25年度ユニットリーダー研修」、「平成25年度介護力向上講習会」について
7.25	職員勉強会「排泄ケアについて」講師 白十字株式会社 営業主任 各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会報告：①入浴委員会（お風呂の日実施報告について）、②口腔ケア委員会（毎月の目標設定について）、③リスクマネジメント委員会（先月のアクシデント集計について）、④夏まつり実行委員会（夏祭りの開催日時等について）、⑤介護力向上委員会（水分摂取と記録について）
8.29	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会報告：①口腔ケア委員会（今月の目標について）、②排泄委員会（勉強会のアンケートについて）、③リスクマネジメント委員会（アクシデント集計について）、④介護力向上委員会（8月の利用者水分摂取状況、排泄の見直しについて）
9.26	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：①口腔ケア委員会（今月の目標について）、②リスクマネジメント委員会（トランスファー勉強会等について）、③入浴委員会（入浴シート作成について）
10.31	職員勉強会「睡眠とスキンケアについて」講師 白十字株式会社 営業主任 各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：①感染症対策委員会（インフルエンザ予防について）、②口腔ケア委員会（バタカラ食前体操実施について）、③入浴委員会（12月にゆず湯実施予定について）、④排泄委員会（排泄勉強会アンケート結果について）、⑤リスクマネジメント委員会（移乗勉強会について）、研修報告「認知症高齢者対応研修」について
11.28	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：①感染症対策委員会（感染性胃腸炎について）、②入浴委員会（お風呂の日について）、③リスクマネジメント委員会（移乗勉強会報告について）、研修報告「平成25年度介護対応研修会（摂食嚥下困難者のケア）」について
12.26	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：①感染症対策委員会（手洗い・うがいの必要性について）、②リスクマネジメント委員会（車椅子疑似体験、移乗勉強会、ヒヤリハット等について）、研修報告「平成25年度福祉大会全国大会（沖縄）」について
H26.1.30	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：①感染症対策委員会（ノロウイルス・インフルエンザ対策の実技）、②口腔ケア委員会（口腔ケアマニュアルについて）、③入浴委員会（お風呂の日実施報告について）、④排泄委員会（感染対策と消臭対策について）、⑤リスクマネジメント委員会（アクシデント集計について）
2.27	各家の取り組み状況報告、厨房会議報告、各委員会：リスクマネジメント委員会（アクシデントの集計について）、ホーム災害訓練（3/11実施）について
3.28	各家の取り組みと1年間の生活報告、厨房会議報告、各委員会より事業報告

② 家長会議

現状の業務や勤務体制の見直し検討の場となりました。直面した問題に、現場レベルで話し合う事は具体的な内容となっていました。

開催月日	内 容
H25.4.26	年間活動計画について、家族会総会について、職員会議の在り方について、介護力向上の研修参加と取り組みについて
5.31	アセスメントシートの見直しについて、環境整備（厚掛布団のクリーニング）について
7.5	夏祭りについて、監査について
8.10	応援職員について、夏祭りについて、各棟にて業務の見直しについて
9.9	敬老会について、復興花火観覧について
10.17	東棟利用者の異動とユニット型の運営について、芋煮会&ミニ運動会について、環境整備（ワックス掛け）について、医務室より（インフルエンザ予防接種について）
11.20	業務の見直しについて、年末・年始の行事について
H26.1.1 9	業務の見直し（1/21 東棟利用者北棟へ異動）について、次年度事業計画について、行事（節分豆まき2/3）について
2.28	ユニットケア研修職員の受け入れについて、災害時の非常食訓練について、一年間のまとめについて

③ 行事

放射線量の問題により、外出が困難な環境の中でも、季節を感じて頂けるよう四季に合っている事業計画を立て取り組んできました。

その中での移動手段は車椅子利用者が殆どであり、出勤者のみの対応では困難な場面が多々あり、休日の職員が手伝ってくれたことで成り立ったように思います。行事に参加された方から、満面の笑みが見られ開催して良かったと感じました。

開催日	行事	内容	参加利用者
25.4.17 4.18	花見ドライブ	川俣方面へ花見ドライブ。体調を考慮し走行距離の短い場所とし、車中より桜の花を楽しまれる。車椅子利用者が増え、リフト車に乗車する人数が限られていることから2日間に分かれての外出となりました。	22名
4.30	花見ドライブ	体調により遠出が出来ない方を対象に、村内の花見ドライブと自宅周辺に出掛け、久しぶりの我が家を見てきたと会話にも花が咲いていました。	16名
5.12	花見交流会	家族会との昼食を兼ねた交流会を持つ。今回は53名のご家族が出席され、各家でゆっくりとコミュニケーションを持たれました。	全員
5.18	そば打ち	福島そば打ち研究会の18名が、100食分の蕎麦と蕎麦がき26食分を作って頂きました。昼食時間にホールで交流を図りながら、美味しく頂きました。	全員
5.28	外食ドライブ	月館の「つきだて花工房」へ外食に出掛ける。初めての施設利用でしたが、食事スペースを広く取って頂き、其々に好みのメニューを注文、ゆっくり食べることができました。また、施設周囲の散策にも休みの職員の協力で安全に介助できました。	20名
5.31	柏もちづくり	東棟でご利用者と一緒に柏餅を作り美味しく味わいました。	10名
7.7	七夕会	各棟ホールにて、寿司桶にそうめんやキュウリ、みかんを浮かべ七夕食事会を行う。普段と違った気分が味わえたと思います。	全員
7.14	お風呂の日 (菖蒲の湯)	入浴委員会が中心となり、大浴槽に菖蒲やバラを浮かべ、銭湯気分の雰囲気づくりをし、湯上りには、ゆったりと寛げる空間もつくりビール等で喉を潤しました。	18名
8.5	夏祭り	昨年同様ホーム内での夏祭りとなりましたが、今年はホールにミニ櫓を設置、夏祭りの気分を味わって貰えるようにしました。職員の催し物や仮装、花塚太鼓の生演奏で盆踊り、模擬店もメニューに工夫し、楽しく美味しく頂ける内容となりました。	全員
9.17	ホーム敬老会	東・西棟合同により、東棟ホールにて敬老会を開催する。職員の催し物や、カラオケ等でお祝いをしました。支援で頂いたプリザーブドの花でテーブルを飾り和やかな中でお祝いできました。	全員
9.21	花火観覧	飯舘復興花火打ち上げ時間に合わせ、東・西棟駐車場で、花火観覧をしました。早番職員の協力もあり、短時間ではありましたが、歓声をあげながら観覧できました。	—
11.10	ホーム芋煮会	昨年同様、ご家族の方の協力を得、芋煮会とミニ運動会を行う。ご家族の方が芋煮の準備をしている間に、ミニ運動会（玉入れ、パン食い競争）が行われ、とても盛り上がりました。年々重度化される入居者の移動は困難で今後の介助方法を検討して行きたい。	全員
11.16	村内ドライブ	紅葉の時期に村内ドライブを行う。入居者は車椅子利用が多く、リフト車の乗車定員もあることから、当日の体調を考慮し、外出できる方と秋の景色を楽しんできました。	19名
12.22	クリスマス会	今年は、クリスマス会にボランティアのMAX音楽隊が来所、歌やダンス披露、その場を盛り上げて下さいました。また、日赤奉仕団から手作りケーキを頂き、皆で美味しく頬張りました。	全員
12.27	餅つき	東棟ホールにて餅つきを行う。杵を持ち、餅つきをできる方も少なくなってきましたが、餅つきの様子を眺め、年の瀬を感じて頂きました。	全員
H26.1.2	新年会	新年の初顔合わせを、昼食を囲み各棟ホールにて行いました。今年は、ソフト食のおせちを頂き、食材の味を活かしたおせちに満足していました。また、恒例の職員の催しものに初笑いで過ごすことができました。	全員

1.14	だんごさし	農家の行事としての団子さしを行いました。色とりどりの団子を慣れた手つきでまるめ、竹ひごとみずの木にさしました。また、まるめた団子は、その場でみたらし団子にして頂きました。	全員
2.3	豆まき	年女・年男の職員と鬼の衣装を着た施設長が各家に周り豆まきをしました。居室で休まれている方も一緒に参加しました。昨年は、恵方巻も作りましたが、一緒に作れる方も少なくなり、2ユニットのみでしたが、恵方巻を作りました。	全員
3.2	ひな祭り 昼食会	体調を考慮し、各家でひな祭りを行い、行事メニューを美味しく頂きました。。	全員
3.11	ホーム防災 訓練	3年前の震災を忘れないよう、昼食時間を利用した非常食訓練を行った。停電や断水を想定断行し、入居者の安全第一に、移乗や移動、食事介助等を実践するなどより本格的な訓練となった。	—

3. 1年を振り返って

震災から3年、職員減少により、ユニット数の縮小や、重度化になってきている方のケア等の見直しは、ケアを維持して行くうえで重要となっており、職員の弛まざる努力と協力、様々な工夫と創造により、対応に追われる一年だったように思います。

今年の冬は、通常でも通勤距離が長く大変なのに、記録的な大雪となり、職員は更なる不安となりました。

出勤したくとも施設へ向かうことができない職員、夜勤明けでも帰宅することができない職員、通行止のなか諦めることをせず14時間も掛けて出勤した職員、職員自身も家庭を心配するなかホームに泊まり3日間同じシフトをこなした職員。それでも、入居者へのケアは普段と変わりなく行い、不安を与えないようにしました。この職員一人ひとりの仕事に対しての意識の高さは、“利用者を想う気持ち”や“寄り添ったケア”、ここに残って勤務すると云う“使命感”があってこそだと思います。そして、お互い支え合える仲間がいるから乗り越えられたと痛感しました。

また、多種多様なボランティアの方々、多方面からの励ましの言葉等、その時の嫌な空気の流れを変えて下さいました。

これからも、“寄り添えるケア”と“お互いに笑って過ごせる”雰囲気づくりに努めて行きたいと思います。

《入居者とホーム職員の推移》

○入居者

年月日	H23.3.11	H 23.4.1	H 24.4.1	H 25.4.1	H 26.4.1	H 26.5.22
入居者	113人	112人	94人	74人	60人	55人

○職員

年月日	H23.3.11	H 23.4.1	H 24.4.1	H 25.4.1	H 26.4.1	H 26.5.22
施設長	1人	1人	1人	1人	1人	1人
介護職員	49人	55人	44人	36人	34人	33人
看護職員	8人	6人	6人	6人	5人	5人
相談員	2人	2人	2人	2人	1人	1人
栄養士	2人	2人	1人	2人	1人	1人
調理職員	11人	9人	6人	6人	5人	5人
清掃員	3人	3人	3人	3人	3人	3人
夜間警備員	2人	2人	2人	2人	2人	2人
事務員	4人	3人	3人	4人	3人	3人
事務員	82人	83人	68人	62人	55人	54人

1. 生活全般について

- 今年度も外気浴や外出等があまり出来ませんでした。ホーム行事のドライブや花見、外食は好評でした。参加された方が戻られた時は、満足そうな笑顔が見られ、後日、楽しかった様子をお話するところが見られました。
- 9月30日に1名の方が、ほほえみの家からひだまりの家に移動して来ました。この方の生活ペースを把握するまで大変でしたが、馴染まれるとフロアでテレビを観て過されたり、レクリエーションで楽しまれたりされています。また、環境の変化によるものか、乳製品も食べられるようになり、排便コントロールも良くなりました。
- 今年度も、ご家族や知人の方が村外へ避難をしている為、まだまだ面会は少なく、子供の声を聴く事もできませんでした。やはりご利用者も言葉に出しません寂しく思っているのではと感じます。職員間でその寂しさを補っていますが、もっとご家族の方に面会をして頂ける様、働きかけて行きたいと思えます。

2. 食事・入浴・排泄・について

1) 食事

- 一人ひとりに合った、食事や摂取時間、食事形態、体調不良の方への栄養バランス等を考慮し、また、栄養補助食品等を用い「食べる」喜びを感じて頂けたと思えます。
- 体調不良の際、看護職や栄養士、介護職の連携により一日の栄養バランスを考え対応して来ました。食事チェック表を用いる事によりスムーズに申し送りが出来ました。
- 家料理では、職員の協力もあり、ご利用者にメニューの要望等を聞き、職員間で相談し提供することで、賑やかな雰囲気の中で美味しく食べる事が出来たと思えます。次年度も季節に合わせて企画したいです。
- ユニット全員揃って外食は出来ませんでした。ホーム企画のドライブ兼外食では他のユニットとの交流も深まり良かったと思えます。次年度も企画を続けて欲しいです。

2) 入浴

- 皮膚トラブルを防ぐ為、個々に合ったクリームを使用し保湿を保つ事が出来ました。
- 体調不良の方でも入浴できるよう、早番・遅番の対応で個浴に入ってもらえる事が出来ました。ユニット内での入浴は、直ぐに相方を呼ぶことが出来るので安心して入る事が出来たと思えます。
- 状態に合わせ随時検討し対応して来ました。入浴出来ない時は、清拭や手浴・足浴で少しでも爽快感を味わって頂くことが出来たと思えます。
- 入浴委員会企画のお風呂の日に、通常は特浴で入浴する方でも、そのお風呂に入る事が出来良かったと思えます。とても満足そうな表情を見ると嬉しく思えます。
- 入浴後の整容で「鏡を見ながら」整える事が出来とても良かった。ご自分の現在の容姿を見て「一言」言われる方もいました。

3) 排泄

- 個々に合ったパットを使用する事により、皮膚トラブルを軽減することに努めて来ましたが、中には湿疹やカビ等で皮膚トラブルを軽減できない方もいました。
- 排便コントロールの調整が上手くいかず、下剤服用や看護職による摘便施行が多くなっています。
- プライバシーの面で「A B C D」と言い方を変え確認し合って来ましたが、ご利用者の居る場や、つい食事時間に話してしまう時もあるので気をつけたいです。

3. ユニットの取り組みについて

4月～9月まで、9の方が経口摂取され9月末～10月始めには10の方が経口摂取でした。その中、介助を要する人は6人、一部介助の方も2人おり、本当に手が回らない状態でした。しかし、多職種の方々の応援や他県からの応援職員によりどうにか乗り越えて来る事が出来ました。昨年と同じく、体調不良により摂取困難になった時、「どの様な食事形態がいいのか」「どの様な食事体勢がいいのか」「いつの時間に食事をしたらいいのか」等、本当に十人十色で、朝から夕方までの介助でしたが「美味

しい」と言う言葉を聞いたり、その表情を見た時は喜びを感じました。また、介護職員同士や看護職員、栄養士の協力を得、状態の情報交換や話し合いを持つことで、連携も密になり、ベストな状態で皆さんに提供出来たと思います。

4. 行事の取り組みについて

- お誕生会の時は、職員の協力もあり、ご利用者に無理なく参加して頂くことが出来ました。また、カラオケや踊り、普段ゆっくりと出来ないお話等で盛り上げる事も出来ました。
- ホーム内の行事には、体調や参加の有無を聞いて参加して頂きました。
- ボランティアによる色々な催し時、東棟で開催する機会が多く、ベッド上で生活されている方の参加が難しかったです。

5. 一年を振り返って

- 4月にご利用者9名でスタートしました。日々様々な葛藤がある中、9月末には1名の方が東棟より移動して来ました。満床の中でも、常に状況を把握、体調を崩された方がいた時でも、看護職や栄養士の協力を得、個々に合った対応が出来たと思います。
- 終末期の方に対しても多くの声掛けを行うことで、目標でもある「寄り添えるケア」に少し近づけたと思いました。
- 応援職員に来て頂いた事で、いつもとは違う「笑顔」を見ることが出来ました。貴重な4ヶ月間を過ごせた事も良かったと思います。
- 日々の介護の中で「ありがとう」の5文字の言葉を聞いた時「介護職として辛いときもありましたが、この仕事・この場所で<ここまで>やって来て良かったなぁ〜」と思うと共に、涙を流す事や怒りが募る大変な時でも、その笑顔で嫌な事を忘れてしまい「また、頑張ろう」と思ってしまう。
- 食事面では、満床且つ全員が経口摂取と云う事もあり、介護の生活基本に追われる日々でしたが、看護職や主任、副主任、介護職、他のユニット職員の協力を得ながら介助することで、皆さんに「うれしい」食事を提供できたと思います。
- 介護職員の退職や異動があり、ご利用者の様子も心配でしたが、応援職員との会話や交流があり、とても嬉しそうな様子も窺う事も出来ました。応援職員とやっと顔馴染みになった頃、応援職員が1ヶ月で交替する等、期間が短かったのが残念でした。
- ご利用者と一緒に笑顔で過ごす事が出来、あっと云う間に一年が過ぎた様に感じました。また、1カ月間だけでしたが、応援職員の方から色々な面で良い刺激を受けたり（声の掛け方や聞き取り易い話し方、気配り等）、私達の日頃の介助や声掛けを見直すきっかけとなり良い経験となりました。また、家職員や多職種との連携も充実していた1年でもありました。日々のケアの中で、もう少し時間に余裕あれば、多くのコミュニケーションを図る事が出来、もっとご利用者を知る事が出来、ケアの向上に繋がって行けると思いました。
- 今年度は、余命を受けられた方々も大きな体調を崩される事無く無事に年度を越す事が出来ました。これらは、家職員の連携は勿論のこと、看護職や栄養士、上司、他ユニット職員の方々の助言や協力があつたからだと思います。この様な職員間の連携を来年度も引き継がれればと思います。
- 縫物をされる方の対応で針の管理が難しく、どの様にしたらご本人の楽しみを維持できるか幾度と無く検討しました。本当に「生き活きと」生活して頂く事の難しさを痛感しました。それでも、縫い上げた時「ほら、綺麗な布だから」「素敵に出来た」と満面の笑みを浮かべて話される様子が微笑ましいです。忙しい中、紛失した針を探がしている時は「もう針を渡さないか」と思う時もありましたが、満足そうな表情を見ると職員も嬉しくなり、ついつい笑顔になってしまいます。また、クリスマスプレゼントの袋を見て「これ俺縫ったんだ」と言われ、やや得意気な面も見られ「縫物をする事」に生きがいを感じている方もいるのだと改めて思いました。
- 今年度の冬は、数回の大雪があり出勤がかなり難しい状況もありました。職場に残っていた職員等でどうにか対応しましたが、事前の天気予報等で分かっている事なので何らかの対策が必要と感じました。それでも今年の雪は予想をはるかに超えるもので、通勤に対しては言葉では表せないほど大変なものでした。

1. 生活全般について

原発事故から3年目を迎えた今年、3名のご利用者とのお別れ、東棟閉棟に伴う移動で1名のご利用者との出会いがありました。

お別れをした1名のご利用者さんは、病院での永眠となり最期のお別れが出来ませんでした。身体的にも精神的にも我慢強くその表情を顔には出すことなく、声掛けにいつも笑顔で応えてくれる方であり、今でもあの笑顔が思い浮かべられます。

また、ある方は、言葉は発声なく一見無愛想なように見えても、常に私達の行動を見ており、気持ちは暖かく手を差し伸べてくれ元気を頂いたことが思い出されます。

この2名の方の入退院の生活の中で、身体状況に目配りや気配りに努め「悔いのないケア」が出来たかどうかと考えさせられ、「これでいい」と云う介護はないと思われました。

また、もう1名の方は、喜怒哀楽が激しく思われがちでしたが、それは病気に伴うものであり、実はとても優しく、苦勞したことを表に出さず私達を見守ってくれていました。

居室で過ごす方に対して、一人ひとりに寄り添うことが出来たか、訴え時の対応や声掛けは出来たのか、一日の生活パターンを上手く活用させてあげられたのかなどを考えると、反省することが多々あったと思います。

そんな中、東棟から新たに1名の方が移ってきたときは雰囲気が一転しました。突然の発声に驚き、時折あっけにとられることもありましたが、徐々に皆さんも馴染まれたようです。

職員が不足し、全体のレクリエーションも儘ならない状況となり、家内で何か行なおうとしましたが、出来る方も限られてしまい思うように出来ませんでした。

また、ご利用者の体調不良や機能低下に伴い、ベッド上で過ごす事が多くなりましたが、一日一回離床を促し、寝たきり予防に心掛け皆で取り組むことが出来ました。

一部の方ではありますが、新聞やタオルがテーブルに置いてあるのを見掛けると「これやんのが」と言われ手伝ってくれました。今後も生活リハビリを兼ね、家での役割や生きがいを感じられるよう継続してお願いしたいと思います。

2. 食事・入浴・排泄について

1) 食事

体調変化に合わせ食事形態の見直しについて検討、口から食べる事・美味しく食べて頂くことに心掛け提供することが出来ました。また、看護職や厨房との連携により、体重増加に対する食事量のアドバイスを頂き、無理のない減量、食べられないときの補助的食品等を提供することで体調を保ち、満足して頂けるよう努めてきました。

誕生会の無い月には家料理等を行い、希望メニューと季節の物を盛り込んだ料理を提供し美味しく頂くことが出来ました。また、一緒に行くことで職員との会話も弾み、笑顔で楽しく過ごせたことと思います。

ご家族の方が面会に来所した時、定期的に本人の好物を持参し、居室で楽しそうに会話しながら一緒に食べる光景は微笑ましく、家族なんだと強く思いました。

2) 排泄について

排尿量に合ったパットの見直しと改善を随時行い、皆で統一し尿臭予防に努めてきました。

定期的に排便コントロールを要する方やトイレ介助を要する方に対して、気兼ねなく訴えられる環境づくりと不愉快にならない言葉使い等、プライバシーに配慮するこ

とが出来たと思います。

皮膚トラブル防止に塗布薬等を使用し保湿に努めることができました。また、尿カテーテルの方にも不快を感じない配慮と尿臭対策の気配りをすることが出来ました。

3) 入浴について

身体状況に合った入浴方法で安心且つ安楽に入浴して頂くことが出来ました。また、ゆったりと入浴することで「あったまった」との満足した声が聞けて良かったと思います。

入浴後の皮膚トラブル対策として、個々の皮膚状態に合わせた入浴剤の使用やローション・クリーム等を使用し保湿に努めることが出来ました。

3. 行事の取り組み

ホーム内の行事は、皆さんに楽しんで頂こうと全員参加に心掛けました。また、長時間の離床が難しい方はベッドを移動しての参加となりました。それでも余興をしてくれた介護職員の声掛けで、その場の雰囲気を楽しむことが出来ました。

一部のご利用者ではありましたが、外食や買い物、花見、紅葉ドライブ等では、とても良い気分転換になった様で、戻られると「ただいまー」と挨拶しながら入ってくる表情はとても生き生きとされていました。

4. 一年を振り返って

日常生活パターンに慣れマンネリ化してしまったことは反省すべきと思っています。また、居室で過ごされることの多い方には見守りが中心となってしまう、果たして一人ひとりのニーズに応えられるような体制が取れていたのかと反省もしています。

しかし、出来る中で、出来るだけ個々の生活スタイルに合わせ、家の設えや席等も変えながら雰囲気作りに努めてきました。

ご家族も面会に来られた時、状態を身近で見え感じ取ろうと遠方から「どうしても顔が見たくて」と定期的に来所されている方や、このような非常時にも関わらず、小さい子供達を連れ面会に来て下さった方々に感謝したいと思います。

これからもご利用者との関わりを大事に、一人ひとりに十分寄り添えるケアを提供して行くことと、安心して生活できるよう職員間の連絡を密に、統一したケアに努めて行きたいと思っています。

1. 生活全般について

職員の異動に伴い、どのような場面で手を差し出せば自然で居られるのか。また、沢山の笑顔を引き出すことが出来るのかと不安もありました。

この一年で1名の方が亡くなり、1名の方が居室移動、1名の方が新たに加わりました。また、体調変化により2名の方が入院されたものの、治療を終え無事我が家に戻り落ち着いた日々を過ごして来ました。

ご家族様の面会数も増え「今度〇〇持って来て居室に飾っても良いですか、こんなにお話しができて笑顔を見られるとは思ってもいなかった」等、お礼の言葉を頂き嬉しく思いました。

毎日、一緒に生活する上で満面の笑みが見られたり、会話の成立等があり本当の家族のように感じる反面、慣れることで言葉使いに厳しさや荒さが出てしまった事が一番の反省点です。

2. 食事・排泄・入浴について

1) 食事

個々に合った食器選定や食形態の見直し、トロミの調整、テーブルの高さ調整、食事中の楽しい会話等、様々な取り組みを行って来ました。経管についても、昼食時はフロアで行うことにより気分転換になるのではと思い継続しています。

反省点としては、目の前で盛り付けが出来なかった事です。次年度は目の前で盛り付けする事により唾液を促進し、また、誤嚥防止に繋がる一歩に向けて行きたいと思っています。

2) 排泄

一年を通じ一番力を入れたケアが排泄ケアです。職員、看護職員が同じ思いで排泄チェック表を手に取り話し合い、快適に排泄が出来よう話し合ってきました。更に、排泄時のサインを見逃さず、排便だけはトイレで済ませてあげたいとの思いが通じたかのように、トイレで排泄が出来たことについては大変嬉しい出来事でした。

3) 入浴について

入浴の際、発見した皮膚トラブルの即対処、入浴後の保湿クリーム塗布、体調や入浴拒否が見られる方には、それに合わせた入浴方法で取り組んできました。しかし、入浴剤の使用については、思いや考えがあってもなかなか行動に移すことが出来ず、一年を通じて変化が見られなかったことが少し残念でした。

衣類の洗濯については、以前は上着のみの洗濯を家で行って来ました。しかし、汚染されていない物に関しても、家で対応をすることにしました。これらは、加齢臭対策で、初めての試みでしたが、臭いが薄れ良い結果に繋がり今後も継続して行きたいと思えます。

3. 行事の取り組みについて

誕生会やレク、年間行事に参加することで、いつもは見られない表情や行動、ご家族と楽しく語らう時間が持てたことから、今後も継続し楽しい時間を増やして行きたいと思っています。

4. 一年を振り返って

ご利用者を愛しいと思う事により、職員間で様々なアイデアが生まれ、それを実行に繋げてきた結果、それらに対し「これ良いな〜」「美味しい」「あははは…」と云う明るい言葉が聴け、また、表情も豊かになったことから、日々のケアの励みとなりました。

今後も「天気が良いので外で食事をするか〜」と云った事はなかなか出来ませんが、家内生活では、ゆったりと寛ぎ楽しんで頂けるよう設えの工夫やお手伝いをして行きたいと思えます。

1. 生活全般について

1) 家目標であった『一人ひとりが安心感、満足感のある生活を送れるようお手伝いをする。』について

- ・ 放射線量の問題により屋内での生活が中心となってしまいましたが、こまめに窓を開放し外気を取り入れることで、少しでも爽やかな風を感じて頂けたことと思います。
- ・ 誕生会や外食ドライブ、季節毎の行事に参加して頂いたことで、季節の節目を楽しんで頂けたと思います。また、米寿のお祝いに、息子さん夫婦がホームに來所、フルートと大正琴で演奏を披露。後日、福島のお食事処に出向きお祝いもされました。この出来事は、深い親子の絆を感じたひと時でもありました。
- ・ レクリエーションは、週3回(火・木・土曜日)実施。なるべく参加を促し活気を持って頂くよう努めてきました。
- ・ ボランティアによる演奏等を鑑賞する事により、和やかな落ち着いた雰囲気を楽しむことが出来たと思います。今後も、出来るだけ社会資源を活用し、楽しみと気分転換に繋げられる環境を整えて行きたいと思います。

2. 食事・入浴・排泄について

1) 食事

- ・ 嗜好や状態変化に合わせ、随時食事形態を見直してきました。(食欲の少ない方への工夫として、食べたいと云うお刺身を買って提供したり、料理をアレンジする等をしたところ、とても満足して食して頂きました。)
 - ・ 家料理として「ペペロンチーノや夏野菜スープ、鍋物、焼きおにぎり、生寿司、豚汁」をご利用者と共に手で触れながら作ったことで、美味しく頂くことが出来たと思います。特に即席板前(男性介護員)による生寿司は大変好評でした。
- ※ 次年度も、季節を感じて頂けるような家料理を充実させるため、栄養士と連携を密にし、必要な食材を調達して頂けるよう努めて行きたいと思います。

2) 排泄

- ・ 其々の体質に合わせ、医療機関や看護職員と相談し、漢方下剤薬や食物繊維等で調整し排便を促して来ました。今後も状態に合わせ柔軟に対応して行きたいと思います。
- ・ 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、支援して行くことで、痒みや不快の軽減に努めてきました。また、体調や尿量の変化に合わせ、随時、排泄用具の見直しをして来ました。
- ・ 消臭対策にも力を入れるため、陰部洗浄の徹底や、排泄物は新聞紙に包み即処理をすることで消臭軽減に努めてきました。それでも尿臭が強く居室全体が臭う場合は、消臭剤等で調整してきました。

3) 入浴

- ・ 随時、個々の状態に合わせ入浴方法を話し合い、情報を共有し、安全且つ安楽な入浴を提供しようと努力して来ましたが、入浴時に手すり等に当り内出血や裂傷を作ってしまうと云うこともありました。しかし、その都度、介護職員同士の話し合いにより改善してきました。また、看護職員や上司からもアドバイスを頂き、迅速に対策することでアクシデントの回避に努めてきました。
- 加齢に伴い状態が重度化したり、拘縮が強くなったりと変化が見られる方が多くなっていますので、今後の状態を見ながら、随時、話し合いを行い最期まで気持ち良く入浴して頂けるよう工夫して行きたいと思います。

3. ユニットの取り組みについて

- 炬燵の所にソファを設けることで、足が伸ばせ、足の浮腫み予防に加え寛いで頂くことができました。また、興味のある番組を録画し日中帯に観て頂きました。録画は、行事参加等で観たい番組が重なっても後で見ることが出来大変喜んで頂いています。最近では、番組を「録っておいてくんにか」と頼まれる事も度々あり、それに応えると、ご本人も「本当に助かる」と笑顔を見せ喜んで頂いています。このような些細な出来事から、信頼関係は本当に大切だと改めて感じます。
- 内出血を発見した時は直ぐに厚手の物で保護したり、足の指先等、褥瘡になる前兆を発見した場合は、保護用として張り紙をあて、見た目をよくした段ボール箱を活用し迅速な対策をする事ができました。
- 口腔ケアでは、ご本人の口腔内の状態に合わせた口腔用品を購入し、しっかりとしたケアが出来たと思います。
- 尿臭の強い方のリネンは、交換日に寝具等（ベッドパット・掛け物全部・クッション等）を毎回洗濯することにより大分軽減されました。
- 季節に合わせた設えは今後も継続して行きたいと思います。

4. 行事等の取り組みについて

- 行事は本年度も屋内中心でしたが、『夏祭りや敬老会、外食ドライブ、紅葉狩り、ミニ運動会&芋煮会、餅つき、新年会、団子さし等』多くの行事に参加して頂き、その折々に、活き活きとした表情や笑顔が見られ楽しむ事が出来たことと思います。また、芋煮会では、ご家族の協力もあり家族と施設が一体となり開催出来たことは大変良かったと思います。
- 誕生会を行うことにあたって、ご家族の方に手紙や面会時にお知らせをして来たことから、ご利用者全員のご家族の方が来て下さり、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

5. 一年を振り返って

今年度も個別ケアを重視し看護職員や多職種、介護職員同士の連携と協力の下、手厚いケアが出来たのではないかと思います。

当家中では3名の方とのお別れがありました。

1名の方は、足の血流が悪くなり医療関係の指示を仰ぎながら様々な対策を行い、悪化しないよう努めてまいりましたが、入院となり、退院間近に控え突然の訃報が届いた時は大変驚きました。

また、1名の方は、体調を崩され、大勢の身内の方に見守られ旅立たれました。最期まで本人らしく生活を送って頂けたのではないかと思います。

もう1名の方は、病気が進行し話す事すら困難で、こちらの問いかけに目で合図をされていましたが静かに旅立たれました。目でコンタクトであり、私達はどのくらい要望に応えることが出来たのだろうかと考えさせられることもありました。

3名の方とのお別れで、看取りのあり方や日頃の手厚いケアの大切さを再認識させられました。

今後も、加齢に伴う身体の重度化や、認知の進行は避けられないものの、少しでも現状維持や元気に過ごして頂くために、日頃の様子を見逃さず、変調を素早く察知し、情報を共有、チームワークを大切に質の高いケアに当たって行きたいと思います。

1. 生活全般について

今年度の家目標でありました「ご利用者との関わりを大切に、個々に合った生活をお手伝いする。」について、個々の体調に合わせたケアを提供出来たと思います。しかし、加齢に伴うレベル低下が昨年より早くなったように感じ、また、生活のメリハリにおいても活気が無くなってきたようにも感じます。

当家では、4名の方の終末ケアに関わり見送ることが出来ました。職員間の協力やご家族の協力を得、最期まで本人らしく過ごせるようなケアを提供出来たと思います。

最期の皆さんの顔が安らかであった事は、介護職員として、悔いの残らないケアが出来たと安心する一コマでもありました。

東棟から北棟のユニットに移動した事で、ご利用者さんに不安を与える場面もあったことと思いますが、これからも、随時、声掛けや状態を見ながらケアにあたり、安心して過して頂けるようにして行きたいと思います。

2. 食事・入浴・排泄について

1) 食事

「口から食べること」の大切さを感じた年でありました。

ご利用者の中には、咽ることが多くなり、口から物を食べられなくなった方が経管栄養となり、以前と比べ表情も変わり体調も変化したように思います。食べられないことがこんなにもストレスに繋がっているのかと感じました。しかし、看護職や栄養士と連携を取り、体調に合わせ、負担にならない食事や経管栄養を提供したところ、少しずつ落ち着きが見られました。

食前に行う「ば・た・か・ら体操」は、介護職員が協力し合い行って来ました。職員が声を出しリードすることで、それに合わせ声を発してくれました。

また、なかなか声を出せない方には、口腔周囲のマッサージに取り組んで来ました。

これからも、少しでも「口から食べる」ことの大切さに心掛け、ケアにあたって行きたいと思います

2) 排泄

「その人に合った排泄と皮膚の保護」の大切さを感じました。

状態の変化により約2週間の入院を余儀なくされた方が、僅かな入院期間中に臀部に褥瘡ができ帰って来ました。この方は本当に皮膚が弱い方で、排泄交換時には必ず洗浄とクリーム等を塗布し皮膚の保護に努めていました。このことから改めて日々のケアが如何に大切であるか再認識出来たことと、自分達の介護力に自信が持てたような気がしました。

また、随時、個々に合ったパットの見直しや排泄介助を行うと共に、様子観察で皮膚トラブルを予防し衛生面にも気を付けてきました。

3) 入浴

高齢化や重度化により、職員2人対応の入浴になりました。皮膚も弱く慎重に洗身や着脱をするよう心掛けて来ましたが、入浴後に内出血も見られることもあり、安全且つ安楽な入浴方法を目指し、話し合いをしながら勉強して行きたいと思います。

3. 行事の取り組みについて

誕生会は「思い出に残る誕生会」を提供することが出来たと思います。特に、容態変化の著しい方にとっては「今年が最後の誕生会かも」との思いから、ご家族の方に協力を頂き、職員と共に手作りの料理で盛大にお祝いをしたところ、嬉し涙を流され、

とても心に沁みたひと時でした。

其々に、ご利用者さん、ご家族の方、職員の心に残る誕生会が出来たと思います。

ホームの行事は、ご利用者さんの体調に合わせて、負担の無い範囲で参加して頂くことが出来ました。

しかし、居室で過ごすことの多い方は、行事への参加が難しくなってきたように感じます。これから行事への関わる方法等を考えることも必要だと感じました。

4. 一年を振り返って

原発事故から3年。未だ避難先からの通勤は職員の大きな負担になっているのは事実です。特に、冬場の通勤は精神的に重く申し掛かり、2月の大雪の際は、今迄にない大変な思いをしておの通勤でした。しかし、職員の職業に対する意志の強さと協力で、ご利用者さんは、いつもと変わらない生活を送れたと思っています。

長距離通勤と精神的問題等で「大変だ・疲れる・休みがない」と日々、話をしていても、「いざ」という時の纏まりは、いいだてホームや、ご利用者さんを思う気持ちの方が勝り、とても素晴らしい団結力のある職員達だと改めて感じ、「この、職場で働いていて良かった。」と思える時でありました。

ご利用者さんの高齢化や重度化により、いつもと変わらないケアを提供していても、内出血や裂傷等のアクシデントに繋がることがあり、日々のケアに悩み、不安や恐怖を感じる事もありましたが、上司や、仲間に打ち明ける事で元気を貰い「また、頑張ろう」と云う気持ちになることができ、とても感謝しています。

今後も、ご利用者さんに寄り添い、安心した生活が送れるよう、笑顔でケアを提供して行きたいと思っています。

1. 生活全般について

「体調管理に努めると共に、その人が生き生きと毎日過ごせるよう支援して行く。」ことを目標に掲げ、ご利用者10名とスタッフ6名でスタートしました。

4月に1名の方が体調を崩され入院、その病院で永眠となり悲しいお別れをしました。そのことから、より一層、体調の変化に気付くことが大切であると感じ、何かあれば看護職員と連絡し合い、ご利用者の体調管理に努めてきました。

日々の生活の中では、少しでも皆さんに楽しんで貰うためや気分転換を図るため、カラオケ大会への参加を促して来ました。

得意な歌を歌う方、「おら、わがねー」と話されながらも小さい声で口ずさむ方、その様子は、恥ずかしそうではありましたが得意げにも見えました。

誕生会では、参加出来ないご家族の方まで、職員が盛り上げたり一緒に写真を撮ったりと、思い出づくりをしました。また、意思疎通の出来る方には、要望に応え南相馬市まで出掛け食事会も行ないました。写真付きのメニューを指差しながら注文され「食べられるのかなー」と心配していたものの美味しそうに完食されていました。なかなか社会と触れる機会が少ないですが、楽しい思いで作りになったことと思います。

行事では、ひな祭り・運動会・餅つき等、四季折々の行事をささやかながらも催して来ました。特に、運動会の玉入れでは家対抗なので大変盛り上がり、また、パン食い競争ではご家族の方も参加され、揺れるパンを取る様子は笑いの渦になり楽しく過ごして頂くことが出来ました。年末の餅つき大会では、杵を持って真剣な表情で餅をつく姿は、昔の記憶が甦って来たのではないかと思える程でした。

10月に「ほほえみの家」が閉鎖、1月には東棟閉鎖により北棟へ移動。職員は、環境の変化で認知症が重度化しないか、設備の違う環境で入浴は大丈夫かなど、諸々考えてしまい心配でたまりませんでした。「のどかなの家」から「だんらんの家」へ移り、つい「のどかなの家」と口に出してしまうなか、あるご利用者の方が「おら、1人で寝るのはやんだ」、また、ある方は、「おれの部屋何処だ」と北棟の環境に馴染めず不穏になれる事もありました。しかし、介護職員の声掛けや寄り添う心を大切に過ごしてきた時間と共に、何とか落ち着きを取り戻せた様に思います。

その日、その日の一日を大切に、出来る事は一緒に行ない、今の状態を継続して行きたいと思います。

2. 食事について

- 朝の離床後、熱いお茶を好む方には、熱いお茶を、苦手な方には補正水を提供するなど、水分補給に努めてきました。
- 食べこぼしの多い方にも食べやすい食器等を提供し自力摂取を促して来ました。
- 体調を崩された方には、看護職と連携をとり食事や水分量を記入し、交替勤務者が状態を分かる様に対応して来ました。
- パタカラ体操を毎日継続して行なう事により嚥下障害の軽減を図ってきました。
- 家料理を実行する事は出来ませんでした。落ち着いた家づくりをしてきました。
- 食事摂取のペースが速く直ぐ食べ終わる方が見受けられたため、ゆっくり楽しみながら食事して頂けるよう声掛け等を行ってきました。また、スプーンの大きさを変えてみる工夫にも取り組めば良かったと思います。

3. 排泄について

- 一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意や便意が感じられない方にもトイレ誘導する等、失禁などの不快感の軽減に努めてきました。
- 尿臭の強い方にはパット交換時、陰部洗浄を行なうと共に、看護職の協力得て洗浄液の対応を行なって来ました。
- 自力排泄が行なえる方には、毎日下衣を交換して頂き、不快感や衛生面での配慮をして来ました。
- 反省点として、トイレ誘導の際の声掛けに羞恥心の配慮に欠けていたことから、今後注意して行きたいと思います。

4. 入浴について

- 身体機能が低下している方には、入浴方法をどのようにするかを話し合い、無理せず2人対応で行い、安心且つ安楽に入浴して頂きました。
- 湯上りローションや保湿クリーム等により皮膚掻痒防止に努めてきました。
- その人らしい装いを準備し、気持ち良くして頂いた。

5. 行事の取り組みについて

ひな祭り、夏祭り、敬老会、運動会、餅つき等、皆で協力し楽しく出来たと思います。また、職員が得意な分野で演芸を提供したり、行事食を提供したり、皆さんとわいわいと楽しく交流ができ良かったと思います。

6. 一年を振り返って

北棟への移動等で慌ただしく忙しい一年だった様な気がします。それでも何とか落ち着いてきたかなと感じていた矢先、2月15日から降り続いた雪で道路が通行止となり、出勤困難な状況となりました。それでも、やっとの思いで出勤して来た職員、夜勤者、何日も泊り込んでいる職員が皆で協力し合い、通行止が解除になるまで頑張った来た事は忘れられません。この時ばかりは震災当時の記憶が甦ってきました。

皆で協力し合えば困難な事も乗り切れる。大雪で仲間の絆がよりいっそう強く感じた一年でもありました。

1. 生活全般について

年間家目標として「精神面や身体面を深く理解し一人ひとりのニーズを把握しながら日々のケアに努める。」を掲げ1年間のケアに努めてきました。

1月中旬に東棟ゆとりの家から、北棟こもれびの家に引っ越すこととなり、新しい場所での生活にすぐに慣れてもらえるか等、不安を抱えての移動となりました。

北棟へ移動後、一番不安だったのは認知症が少しずつ進行している方の様子でした。介護を学んだとき“出来るだけ住み慣れた環境で・・・”生活することが基本であるとのことにより、新しい環境に馴染めなかったらと思い悩んだこともありました。

それからまもなくご利用者の状態に変化がみられました。部屋の作りがどこも似ていることに戸惑う方や、居室にトイレがあることで、トイレに執着し夜間帯も落ち着いて休むことが出来なくなってしまった方など、予想もつかない行動や言動が多くなってしまいました。

移動後、一人ひとりの様子や心身状態に、寄り添い見守りながら、今一番必要としているケアは何なのかを職員が其々考え、試行錯誤しながらより良いケアに導き出す努力が必要であると再認識させられました。

2. 食事・入浴・排泄について

1) 食事

個人にあった食事形態や量、嗜好等を把握し美味しく食べて頂けることを目標にしてきました。口から食べることを大切にし、無理強いはせずに“食べられる量”を“食べられる時”にしっかり食べて頂けるよう、看護職や栄養士を交えた家会議やケア会議等で十分な話し合いを行うことでより良いケアに繋げることが出来たと思います。

また、服薬時に水分でむせてしまう方にトロミ水を作って提供するようしたところ、薬をむせることなく飲んで頂くことが出来たので、今後も継続して対応して行きたいと思います。

2) 入浴

北棟へ移動後、お風呂好きだった方が急にお風呂を嫌がるようになってしまった。原因は浴槽が深いため恐怖感があったことから、浴槽用椅子等を使用し湯量も調整。また、入浴時には音楽を流しゆったりと入浴して頂けるよう工夫を行なってきました。

3) 排泄

オムツ使用の方が2名、他8名の方はトイレ排泄を基本とし、プライバシーに配慮し対応してきました。東棟ゆとりの家の時とは違い、居室に其々のトイレが設置してあるものの、今まで使い慣れていたトイレとは勝手が違い戸惑ってしまうこともありました。また、尿臭の強い方の対応として、こまめな着替えや消臭剤等を活用し消臭対策に努めてきました。

3. ユニットの取り組みについて

北棟へ移動後、なるべく以前と変わらないような環境で過ごして頂けるように、テーブルやテレビ等の配置に工夫を凝らし、試行錯誤を繰り返し、漸く落ち着いた雰囲気となりました。

4. 一年を振り返って

原発事故から3年が過ぎました。気が付けばあっと云う間の出来事だったような気がします。今でも原発事故さえなかったら・・・と強く思う時があります。

また、今年は例年にない雪の多い年であり、非常に貴重な体験をする事が出来ました。それらを踏まえ、雪に限らず大雨や台風等の災害時にもしっかりと対応できるよう仕組みと備えをしておかなければならないと強く感じました。

現状に甘んじることなく、今出来る事をしっかりとやる事が、今後に繋がると信じ頑張りたいと思います。(いいだてホームに明るい未来が来ることを信じて。)